学校番号
3 4 0 0 1

令和７年度　自己評価及び学校関係者評価書

令和　8 年 3 月 17 日

札幌市立　札幌市立幌東中学校

1　今年度の重点目標

「登校するのが楽しいと思える学校を目指して」

１．「人間尊重の教育」の推進～多様性を認め合いながら

２．学習指導要領に基づいた教育課程の編成と信頼される学習評価（実践、研修・研鑽）

３．「学ぶ力」・「豊かな心」・「健やかな体」の育成

４．新たな学校課題への対応

５．学校を支える保護者・地域・関係機関との連携

2　本年度の経営方針

1　豊かな人間性と社会性の向上
2　基礎学力の確実な定着と学ぶ力の向上
3　特別な配慮を必要とする生徒への支援
4　健康・安全教育の充実
5　キャリア発達を促す進路指導の充実
6　全員参加による学校経営
7　信頼される学校の創造

3　自己評価結果に対する学校関係者評価

分野			重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
					達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
包括的重点 ■■■「さっぽろっ子「学び」のススメ」の推進 ■■■小中一貫した教育の推進 ■■■ＩＣＴを活用した教育の推進（情報教育） ■■■校種間連携（教育課程の連携）	知・徳・体の調和のとれた育ち	学ぶ力	さっぽろっ子「学び」のススメの活用	「分かる･できる･楽しい」授業の充実	A	学校評価アンケートの「先生方は、わかりやすく楽しい授業を進めてくれる」という設問では肯定的な回答が92.9%と高い割合を示している一方で、共通指標の「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている」という設問では肯定的な回答が73.6%となっており、学習内容を確実に理解し定着する部分に課題があることがわかる。今後も、課題に対する主体的で粘り強い取組への指導の一層の充実を図る。	A	A
		豊かな心	いじめの防止	生徒の変化を的確に把握する、組織的な支援活動	A	学校評価アンケートの「(先生方は)相談しやすい」という設問における肯定的解答がが93.2%、「いじめのない安心できる学校生活」が86.9%となっており、高い割合で目標は達成しているといえる。しかし、１割強の生徒の否定的な回答にも着目し、定期的な生活状況アンケートや毎日のシャボテンの効果的活用を図りながら、生徒の変化をいち早く的確に把握するよう努める。	A	A
		健やかな体	「健やかな体」育成プログラムの実施	体育・健康に関する指導と体育的行事の充実	A	全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、80%以上の生徒が運動・スポーツが好きであると回答している。また学力状況調査などから、朝食摂取・睡眠についても全国平均よりも良好な回答を示している。今後も体育的行事の充実を柱に取り組むとともに、保健体育の授業の充実に努める。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見			自己評価、改善策共に適切だと思う。豊かな心（いじめ防止）へのきめ細かで組織的な取組が功を奏して、大変落ち着いた雰囲気の学校となっていると聞いてとても安心した。健やかな体の部分では、もう少し何か工夫をしながら、その育成の充実を図れるとなおよいと思う。				
	札幌らしい特色ある学校教育		持続可能な社会の実現を考える【環境】	「総合的な学習の時間」の充実	A	学校評価アンケートの「総合的な学習では、主体的に調査活動やまとめ・発表活動に取り組んでいる 」という設問における肯定的な回答が91.6%となっている。また、ＩＣＴの活用も進み、生徒の発表の質も年々向上し、主体性や表現力が高まってきていることがうかがえる。これからも、適切な課題や取組を計画しながら、生徒の資質・能力を育てたい。	A	A
	子どもの発達への支援		不登校支援	個別の生徒のニーズに応じた支援の充実	A	相談支援パートナーと連携し、別室対応やオンラインによる授業参加などによる個別の支援に取り組み、不登校生徒は減少傾向にある。今後も生徒の登校不安や学業不振など一人一人に寄り添い、多様な学び形態の可能性も考慮しながら、粘り強く支援していく。	A	A
	信頼される学校の創造		校種間連携	CS構築を見据えた小中連携の取組の充実	B	本校のＣＳ構築に向けて、ベースとなる小中連携した取組をどのように進めていくか今年度も試行錯誤の段階である。札教研の在り方を含め、小中合同で持続可能な取組を構築し、地域との連携の在り方を検討していく。	A	A
	教科等の枠組を越えた教育		情報教育	「1人1台端末」の各教科での積極的な活用	B	学校評価アンケートの「授業や諸活動などでＩＣＴ機器を積極的に活用している」に対する肯定的な回答は83.2%と高い数値を示しており、学校での「1人1台端末」の活用は進みつつある。一方で、ＩＣＴ活用アンケートの「家庭で端末を活用することで、学習が充実している。」では肯定的解答が64.9%となっており、ＩＣＴの家庭学習での活用にはまだ課題が見られる。ＩＣＴを活用した家庭学習定着の取組を進めたい。	A	A
	学校関係者評価委員会による意見			近年、全国的に増加傾向にある不登校については心配しているところではあるが、本校は、環境的にも人間関係的にも、きめ細かく取り組んでいただいているということでよかった。１人１台端末については、目の健康との兼ね合いで心配な面もあるが、うまく活用しながら、学習習慣の定着への課題に対応できるとよいと思う。				
学校独自に設定する分野			「人間尊重の教育」の充実		A	毎月の生活状況アンケート、心の健康観察アプリ「シャボテン」への毎日の入力から、一人一人を尊重しつつ大切にする教育活動を実践してきた。また、後期より男女による委員選出をやめ、多様性を踏まえた形態へ移行した。成果と課題を見極めつつ、より一層の充実に努める。	A	A
			校内研修会の充実		A	次期学習指導要領や評価の在り方やＩＣＴの活用についての研修を中心に行い、成果と課題が明確になった。研修内容を今後の教育活動に生かし、資質・能力の向上を今まで以上に図る。	A	A
学校関係者評価委員会による意見				一人一人を尊重し大切にする教育活動の実践の成果がアンケート結果に反映されているようで安心した。生徒の自治活動の充実等工夫を重ね、さらに、一人一人が大切にされている学校、誰もが安心して生活できる学校の実現を目指してほしい。				